

## 事前評価調書

I 事業概要						
事業名	治山事業（予防治山事業）					
地区名	新城市作手保永字本宮					
事業箇所	新城市作手保永字本宮					
事業のあらまし	治山施設を整備することにより、荒廃溪流を保全し、山地災害を防止する。					
事業目標	【達成（主要）目標】 床固工1個、谷止工3個、流路工38mを設置し、荒廃溪流の保全を図る。					
事業費	事業費		内訳			
	61百万円		■工事費 60百万円、■用補費 1百万円、□その他 百万円			
事業期間	採択予定年度	平成27年度	着工予定年度	平成28年度	完成予定年度	平成29年度
事業内容	床固工1個、谷止工3個、流路工38mを設置する。					
II 評価						
①事業の必要性	1) 必要性	当該地域では、溪流の荒廃が進み、山地災害の発生の恐れが懸念されている。地元からの事業実施の要望も強いいため、治山事業の実施が必要である。				
	判定	A	A：現状の課題又は将来の予測から事業の必要性がある。 B：現状の課題又は将来の予測が十分把握されていない。			
		【理由】	山地災害の未然防止を図る上で、当該地域における事業実施が必要であるため。			
②事業の実効性	1) 事業計画	平成25年度に測量設計委託を1百万円で行い、平成28年度に工事を27百万円で行う計画となっている。 事業期間は平成28年度から平成29年度で、総事業費は61百万円の予定である。				
	2) 地元の合意形成	合意済み				
	判定	A	A：事業計画の実効性が期待できる。 B：事業計画の実効性が期待できない。			
【理由】		地元の合意形成が図られており、実効性が期待できる。				
III 対応方針						
妥当である	事業実施が妥当である。：上記①及び②の評価がすべてA判定であるもの。 事業実施は妥当でない。：上記以外のもの。					
IV 事後評価実施の有無と主な評価内容						
■対象（事業完了後5年目） □対象外						
【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】						
【主な評価内容】						
治山施設の整備状況						